

J A 自己改革推進レポートについて

令和元年 11 月 26 日
J A 鳥取県中央会

1. 「J A の自己改革に関する組合員調査」について

- (1) J A 全中が実施している「J A の自己改革に関する組合員調査」の第 2 次調査は、第 1 次調査 (H30. 12~H31. 4. 30) で実施できなかった組合員を対象に、令和元年 5 月から令和元年 12 月まで実施されている。
- (2) 直近の各 J A の取り組み状況は、県下全体で 51.5% だった。調査終了まで残り 1 か月となり、さらに取り組みを加速させる必要がある。なお、第 1 次調査及び第 2 次調査を合わせた最終的な調査結果には、令和 2 年 5 月以降に公表される予定である。

【県下進捗状況の推移】

J A 名	第 1 次調査中間 (H31. 2)	第 1 次調査 (R 元. 5)	※直近
いなば	27.0%	39.5%	47.2%
中央	33.7%	51.1%	65.1%
西部	21.0%	34.8%	46.2%
合計	26.8%	41.3%	51.5%

※直近は、いなば：11/22、中央：10 月末、西部：11/14 時点での進捗率。

2. 鳥取県県中学校駅伝競走大会へ協賛品提供

10 月 16 日鳥取市「布勢総合運動公園」で、鳥取県県中学校駅伝競走大会が開催された。J A グループ鳥取も協賛し、県産米等の提供を通じ、次代を担う若者を応援した。男女優勝チームに決勝ゴールテープや県産米「きぬむすめ」計 44 キロ、生徒数 150 人以内で最高位（優勝を除く）の学校に「わかば賞」として梨「新興」計 20 キロを提供した。



3. J A 自己改革実践状況

(1) J A 鳥取いなばの取り組み

① らっきょうの花を小学校に贈呈

鳥取砂丘らっきょうの魅力アップを図る「未来へつなぐらっきょう将来ビジョン研究会（西尾祥幸代表）」は10月21日、鳥取市立小学校12校に、市の花である“らっきょうの花”を贈った。らっきょうに興味を持ってもらうため4年間続けており、5年かけて市立小の全41校に贈呈する計画。



② 自転車イベントで柿・梨をPR

J A 鳥取いなばは10月20日、県東部で開かれた自転車イベント「鳥取すごい！ライド」の参加者に、旬の柿や梨、はとむぎ茶などを配布し、特産品をPRした。地域貢献・地域活性化の一環でイベントに参加し、休憩ポイントで、特産の柿「西条」、梨「新興」、早生リンゴ「ふじ」のほか、「鳥取のはとむぎ茶」や梨シャーベットなどを提供した。



③ 子ども農業教室で牛とのふれあい

J A 鳥取いなばは10月26日、子ども農業教室を開き、畜産農家の仕事内容の勉強や牧場でエサやりを体験。生きるために、家畜の命をいただいていることを忘れず、感謝の気持ちを持つことを伝えた。美歎牧場を訪問し、牛のエサやりで体の大きさや食べる姿を観察したほか、頭をなでて触れあった。



④ 女性会が八東で生産者消費者交流会

J A 鳥取いなば女性会は10月29日、生産者と消費者の交流会を開いた。八頭町でリンゴ収穫体験と広域あんぼ柿加工施設を見学したほか、柿生産者と意見交換し、地産地消が農業の維持・発展につながると消費者に呼び掛けた。広域あんぼ柿加工施設では、特産の柿「西条」の加工作業を見学し、参加者は柿加工に興味津々な様子だった。



⑤ 園児がサツマイモ収穫体験

J A鳥取いなば郡家支店は10月9日、郡家保育所の園児を招いてサツマイモ掘り体験を八頭町で開いた。園児らは大きいサツマイモを掘りあてると歓声をあげて喜んでた。食農教育の一環として、サツマイモの植付けと収穫を体験。サツマイモは各家庭に持ち帰って味わったほか、同支店の農協まつりで焼き芋にして園児にプレゼントした。



(2) J A鳥取中央の取り組み

① 「第15回山の祭り・第40回住宅デー」に参加！

10月27日の日曜日、倉吉市の大御堂廃寺跡で県中部森林組合などが主催する山の祭り・住宅デーが開かれた。J A鳥取中央は地域社会貢献活動の一環として、地元産の農畜産物、J Aえひめ中央との連携による愛媛みかんとポンジュースを農林水産物販売コーナーにおいて、食の発信を企画した。この催しは、鳥取県中部地震や台風等の自然災害が度重なり3年ぶりの開催となったが、親子連れなど大勢の人でにぎわった。



② 農業大学校アグリチャレンジ科の研修生を受け入れ！

J A鳥取中央の(株)グリーンファーム大黒は11月6日から8日と13日から15日の計6日間、県立農業大学校アグリチャレンジ科の研修生計4人を受け入れ農業体験を行った。同校のアグリチャレンジ科は、農機の使い方や肥料農薬の取扱い方、栽培管理などの実習を通じて、公共職業訓練として農業の基本知識と実践に活かせる技能を学んでいる。6日は機械で掘り取った白ネギをネットに巻いて積み込む作業や、選果調整作業を行った。研修生は「効率的な作業体制の仕組みや、栽培管理などを学び自身の就農につなげたい」と話す。



③ 社協主催「第3回ボランティアフェスティバル」に参加！

J A鳥取中央「みらいサポート“愛”プロジェクト」は11月10日、倉吉市社会福祉協議会主催の「第3回ボランティアフェスティバル」に参加した。この催しは、高校・大学生・ボランティアグループ・企業が中心となって企画し、若者のボランティア活動への興味と感心を高め、無理をせず出来る事から互いに支え合い笑顔で暮らせるまち作りを目指す取り組み。昨年は参加者を交え餅をつき、ぜんざい・きな粉餅を無料配布した。2回目の参加となる今年も、新品種米「星空舞」を使ったおにぎりの試食、並びにおにぎり作り体験、米とみかんを販売した。また、J A出店コーナーに「J Aが子どもの未来や地域社会福祉に貢献すること」を目的に設置したチャリティー募金を、社会福祉協議会へ寄付した。



(3) J A鳥取西部の取り組み

① 農林水産省による「J Aとの対話」での意見交換の実施

農林水産省等とJ AとがJ A自己改革の取り組み等について話合う「J Aとの対話」が11月13日にJ A鳥取西部本所にて実施された。当日はJ A鳥取西部におけるJ A自己改革の実践などの取り組みの説明の後、意見交換を開始し、農水省担当者からは、各取り組みへの評価を受けるとともに、農業所得の増大等についての議論を交わした。



② 地域清掃ボランティア

J A鳥取西部は10月28日、地域美化活動の一環として米子市のJ A本所の裏手を流れる米川の清掃ボランティア活動を行った。米川沿いの花壇にはツツジが植えられていたが、雑草などが生い茂っていた。職員らは花壇に生える雑草を、鎌などを使って手作業で取り除き、袋に詰めて回収した。参加した同J A総務課の西富鉄也課長は「花壇が綺麗になってよかった。今後もJ Aとして地域に貢献できる活動に積極的に取り組んでいきたい」と笑顔で話した。



(4) JA全農とつとりのJA自己改革の実践

① 星空舞本格デビュー

鳥取県が20年の歳月をかけて開発した米新品種「星空舞」が10月1日より本格デビューした。9月下旬からその販売促進イベントを各地で行い、県内はもちろん関東・京阪神の各地で「星空舞」の全国PRを行っている。

【各PR活動】

- 1) 9月14日(土)「星空舞」稲刈り
- 2) 9月21日(土)県内プレデビューイベント
- 3) 10月2日(水)日本海テレビ「鳥取めぐりヌーヴォー」に登場
- 4) 10月5日(土)JR大阪駅にて関西デビューイベント
- 5) 10月13日(日)東京スカイツリーにて「星空舞」コラボイベント
- 6) 10月29日(火)東京スカイツリータウンにて全国デビュー発表会
- 7) 11月9日(土)みのりみのるマルシェ鳥取の実り



(5) メイン強化先への訪問活動の取り組みについて (JA鳥取信連)

JAバンク鳥取では、将来にわたり関係を強化・再構築すべき農業者(個人・法人)をメイン強化先と位置付け、営農部門と信用部門(必要に応じて信連農業金融センター)と連携・同行訪問を行っている。

訪問活動では、農業者の現状・経営上の課題・JAへの意見要望や競合他社の動向等をヒアリングし、メイン強化先の営農改善・フォローアップを図るほか、顧客の資金等ニーズの的確な把握、アンケート調査実施と結果の活用により顧客満足(CS)の向上を図ることとしている。

今年度もメイン強化先に対し年2回の訪問を基本としている。今年度上期実績では、県下のメイン強化先211先に対し全先訪問済であり、下期においても訪問することとしている。

(6) 鳥取県立湖陵高等学校 JGAP 認証報告会の開催 (JA共済連鳥取)

10月21日に鳥取いなば谷口組合長・JA共済連鳥取森山本部長が参列のもと、鳥取県湖陵高等学校にてJGAP認証報告会が開催された。(令和元年7月30日認証)

この認証は、昨年度JA鳥取いなば・JA共済連鳥取が寄贈した教育実習機材等を活用して生産したトマトが、生産工程の安全管理等において認められたことによるものである。

認証報告会では、濱崎校長より「JGAPの審査員からはこれほど理解している生徒は初めてであると評価されたので、生徒には自信を持って今後も活動してもらいたい。また、JA鳥取いなば・JA共済連鳥取の支援のおかげで成り立っていることを理解してほしい。」と挨拶があった。

今後もJA共済では、鳥取県内の地域農業の発展のために様々な取り組みを行い、地域貢献活動をしていく。

